広報 九州
国民の森林・国有林
令和元年6月10日
（2019年）
No.1768
九州森林管理局
〒860-0081
熊本市西区京町本丁２－７
IP電話：050-3160-6600（代表）
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/

「ユネスコエコパーク」の適切な保全に向けた取り組み

【宮崎北部森林管理署】急峻な地形を有する宮崎北部森林管理署は、２市５町２村の国有林３２３６２haを管理し、九州脊梁山系１０００m以上の山々を有し、四季折々の姿で人々を魅了しています。

また、この雄々しい山々は地域とも関連が深く沢山の恵み・営みを育む「山」を生活環境に取り入れ、まさに天孫降臨の地として相応しく生活に欠かせない場所を地域に提供しているところです。

このような中、祖母・傾・大崩山系周辺地域が、平成29年６月、ユネスコエコパークに登録されました。ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目的とし、ユネスコが開始した事業であり「地域の自然と文化を守りつつ地域社会の発展向上を目指す。」こととされています。

鉾岳山頂から上鹿川集落を望む

ユネスコエコパークには３つの機能があり、個々の機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークを相互に強化する関係にあります。

※保存（生物多様性の保全）
※学術的研究支援（科学的な調査や教育の場を提供）
※経済と社会の発展（自然環境の保全と調和した持続可能な地域発展）

この３つの機能をすべて網羅した当署においては、「多様な活動の森」における森林空間整備活動として、宮崎県延岡市北方町上鹿川にあるフォレスト・マントル上鹿川団体の代表者である戸高正男氏と、「多様な活動の森における森林づくり活動に関する協定書」を締結し、鬼の目山林道及びその周囲における歩道の修理・作設、その他鬼の目スギ周辺のシカによる食害で荒廃地となった林地の植生回復のため、シカネットを上鹿川集落住民、ボランティア及び当署職員にて設置し、保全・保護活動に取り組んでいます。この祖母・傾・大崩山周辺地域は、当署管内でも特に急峻な地形であり、なおかつ資材搬入のため徒歩で約５キロメートルの“山道”を約１０キログラムの資材を背負い、ただひたすら一歩一歩進んでいく山道であります。たどり着いた頃には汗だくで膝もがくがくし、息を整えると、そこには雄大な姿で鬼の目スギがよく来たと出迎えてくれ、苦労がむくわれ感動する瞬間であります。これだけの苦労を重ね、ユネスコエコ

祝子川渓谷

パークの1つの目的である生物多様性の保全を達成させる背景には、特に上鹿川集落住民と九州各県からボランティアで参加された方々の「山」に対する感謝の気持ちである。また、ユネスコエコパークの国有林野内は、ほぼ広葉樹であり、そのすべてが川上に位置する。すべての施業において始まりは川上であり、川下を潤すには森林のもつ多面的機能を十二分に発揮することであり、当該団体の活動は林野庁職員として感謝に堪えないものであります。

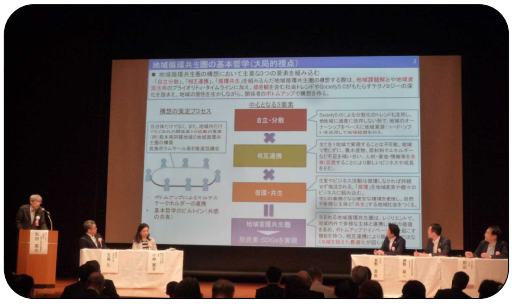
当署としても世界に名を残した祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの名に恥じぬよう全面的にバックアップし、今後においては近隣の森林整備・プロフェッショナルによる有害鳥獣捕獲を実施し、関係市町村とも更なる連携を深め、名実ともに名の響き渡る宮崎北部森林管理署としたいと考えます。

ボランティアによるシカネットの設置

鬼の目スギ

九州地域循環共生圏シンポジウムが開催

【福岡森林管理署】5月18日福岡市で地域循環共生圏シンポジウムが開催され、原田義昭環境大臣をはじめ九州の産学官関係者約300名の参加があり、当署からは角秀敏福岡森林管理署長が出席しました。



シンポジウムの様子

このシンポジウムは、環境省が自然環境を生かした持続可能な地域づくりを通じ環境問題や経済問題の同時解決を目指し、九州でどう構築していくかを考えるもので、九州森林管理局は後援として林業の成長産業化と森林資源の適切な管理など3種のパネル展示を行い、取り組みをPRしました。

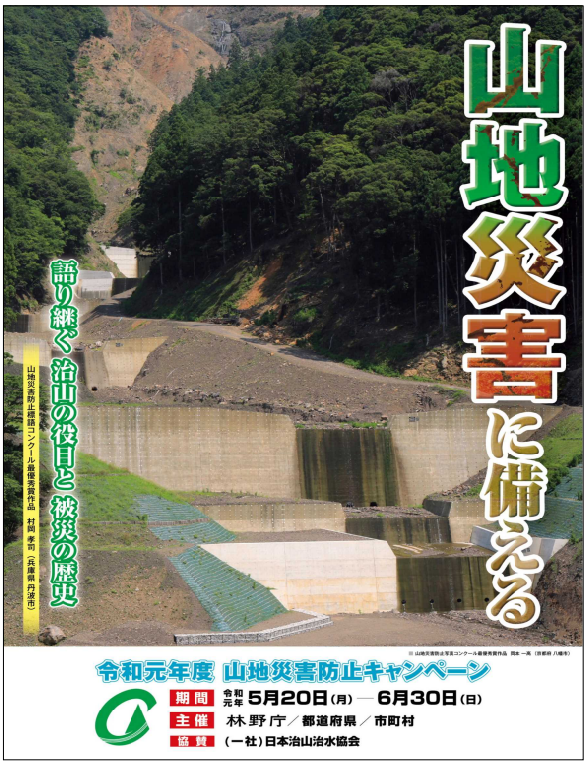
パネルディスカッションでは、福岡県の宗像大社葦津敬之宮司の「宗像国際環境100人会議」の取り組みをはじめ、大西一史熊本市長、森博幸鹿島市長、長野添紘別府市長など10名のパネリストが、先駆的事例や地域の将来像とその実現に向けた報告、討論が行われました。

このシンポジウムを通して、九州の自然環境は特に優れていることを認識するとともに、福岡森林管理署においても、「地域と連携した・林業再生」を重点取組事項に掲げ取り組みを進めていくことにしています。

山地災害防止キャンペーン

林野庁では、令和元年5月20日から6月30日までの期間、「山地災害に備える」を合い言葉に、「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。

九州森林管理局においては、この期間中、地域住民の皆様の防災意識の高揚に資することを目的として、関係機関や地域住民の皆様などのご理解・ご協力を得ながら、山地災害危険地区の周知やパトロールなどを実施しています。**（担当＝治山課）**



生産・造林の安全等の勉強会を開催

【宮崎南部森林管理署】5月14日、当署会議室において、生産・造林の請負事業体からの要請を受けて安全等の勉強会を請負事業体6社、署担当者の総勢21名が参加し実施しました。

最初に、井上隆裕宮崎南部署長から最近起こった交通事故においてブレーキが踏まれていないケースがあり、林業でも機械等を使用する中、安全に止めることの重要性について説明がありました。

次に、野邊忠司次長より平成31年度重点取組事項（九州森林管理局版）の説明に併せて当署の重点取組事項の説明を行うとともに、8月1日から施行される労働安全衛生規則の一部を改正する省令（伐木作業等における危険を防止するための措置）、伐木等の作業における労働災害発生状況、ダニ刺咬予防対策の取組、他局で発生した椪積崩落事故について安全講義を行いました。

参加した請負事業体からは、人はエラーを起こすことを前提に事故を防ぐ対策を講じることの必要性について大変勉強になった、また、定期的に安全等の勉強会を開催して欲しいとの声が寄せられました。

当署では、今後とも請負事業体との安全等の勉強会を実施することにより、類似災害等の未然防止に努めていく考えです。

説明を受ける請負事業体の方々

請負事業体等との安全会議を開催

【熊本森林管理署】5月9日、菊池市社会福祉協議会本所会議室において、請負事業実行中の事業体などを対象に安全会議を開催しました。

当署においては、平成23年度以降請負事業体の災害が毎年度発生している状況にあり、これから本格的な事業最盛期に向かうため、実行中8社の事業体関係者と当署関係者の総勢48名が参加して開催しました。

会議は久保幸治次長の司会進行により、冒頭、川畑充郎署長から、「熊本署管内からは災害を出さないよう、原点に立ち返ってより一層の安全対策を徹底して頂きたい」との挨拶で始まり、続いて松本輝生総括森林整備官から造林・生産事業の、歌野邦美総括治山技術官から森林土木事業の労働災害の現状や未然防止に向けた対策等について説明しました。

また、菊池労働基準監督署担当官から林業労働災害発生の現状や本年8月から施行される労働安全衛生規則及び安全衛生特別教育規程の一部改正等について、細かく指導を頂きました。

最後に各社の代表者から、現在取り組んでいる安全対策についての発表と意見交換を行うとともに、本年度のゼロ災と安全を祈念して安全唱和「ゼロ災でいこう。ヨシ！」で締めくくり、参加者全員で決意を新たに閉会しました。

安全会議の様子

南那珂地区林研グループが総会を開く

【宮崎南部森林管理署】5月28日に日南市飫肥で南那珂地区林研グループが総会を開きました。

会議には、日南地区、北郷地区、南郷地区、串間地区の各地区林研グループの代表や宮崎県、日南市、串間市及び当署から37名が参加し、一年間の活動計画などを議論しました。

来賓として挨拶した井上隆裕署長は、長野県での木製品の販売事例として、木曽ヒノキの端材など地域の特色のある人気商品の開発が地域の活性化につながることなど紹介しました。

また、郷原寛美森林技術指導官

井上署長の挨拶

から、早生樹として注目を集めている「センダン」の生育方法の紹介を行いました。

参加者からは、現地研修会の充実、若手会員の発掘、伐採跡地の再造林の推進・下刈りの省力化、センダン苗の入手方法や台風など強風対策など活発な質疑が行われ総会は無事終了しました。

当署としても地域の林研グループの皆さんの林業に対する情熱を受け止めて、今後とも、民有林・国有林が連携して地域の林業の活性化のため取組みを一層推進していきます。

テレビ取材へフィールド提供

【熊本森林管理署】平成31年4月12日、当署内田森林事務所部内の山鹿市に所在する横尾国有林36林班の立木販売箇所において、高性能林業機械による伐木造材作業の取材をするためのフィールドを提供しました。

これは、熊本県が実施する林業イメージアップ事業として紹介するために、同県森林整備課から国有林への入林依頼があったもので、RKK熊本放送で毎週水曜日に放送されている県政広報テレビ番組「くまモン スマイル ジャンプ」の一環として、林業就業者の不足・高齢化等の課題解決のため林業のイメージ（きつい、汚い、危険）を払拭すべく、伐木プロフェッショナルの魅力を発信し、林業就業希望者の発掘や林業新規就業者の増加を目指すことを目的に計画されたものです。

当日は、くまモンがインタビュアーとなり、熊本県森林整備課担当者への取材と併せて、当国有林内で作業する有限会社秋吉林業の秋吉一廣さんが、「若手に興味を持ってもらいたい」と、実際にプロセッサを操作して伐採された立木の枝打ち、玉切り、集積する作業状況の取材がなされました。

当署としては、本年度から開校したくまもと林業大学校を含め引き続き熊本県の民有林施策への支援、協力を行っていく考えです。

作業状況を紹介するくまモン（c2010熊本県くまモン）

大分署・大分西部署合同で採材検討会を開催

【大分森林管理署・大分西部森林管理署】5月16日、由布市湯布院町川西の蛇越岳国有林216林班内において、大分森林管理署・大分西部森林管理署合同により、採材検討会を開催しました。当日は、大分県内の国有林の森林整備に係る林業関係事業体やシステム地元協定者ら45名の参加者と主催者側から坂本和隆大分森林管理署長、益田健太大分西部森林管理署長をはじめ森林管理署職員が参加し、総勢約80名で実施しました。

採材検討会では、廣田光春主任森林整備官の司会進行により始まり、検討会の趣旨を説明したあと、主催者を代表して大分署長から、「森林整備により伐採・搬出された材が、どのように採材をすれば流通にのって消費者に届くのか、国民の財産としてマテリアル利用に主点を置いた採材を意識して、限られた時間ではありますが、有意義な検討会となるようお願いします」と挨拶がありました。

つづいて、高倉邦彦総括森林整備官から、森林整備事業の現場で安全作業を行うための、伐倒時の退避、クサビの使用方法など安全対策の説明。また、蛇越岳国有林を管理する久住森林事務所の上村徳光首席森林官から検討会会場となる現場の林況、出材予定などの概要を説明。蒲池勝也森林整備官から、採材を行うにあたっての、直材の基準など品質確保をするための注意点について説明を行いました。

その後、サンプルとして準備した4本の全幹材を、どのように採材することがニーズにあった採材ができるかの検討を行いました。

元口部の曲がりや3メートル、4メートル部で曲がったサンプル材で意見がわかれる場面もあり、実際に採材を行いどのような長さで採材することが有利となるか、採材をした後の材を見て各社の目線が一致できました。

おわりに、大分西部署長から「普段はキャビンからの作業となりますが、今日は理想的な採材を検討し、それぞれの立場からの目線による違いも見えました。1本の木から価値ある材を生み出すため、本日の検討会で出された意見を明日からの作業に反映していただきたい。」と挨拶がありました。

この度、検討会の開催にあたって、ご協力頂いた大分林業（有）に感謝申し上げます。

現地で有利採材の検討をする参加者

次世代造林プロジェクト経過報告会を開催

九州森林管理局では、熊本南部森林管理署管内の西浦国有林に低コストモデル実証の技術開発試験地（次世代造林プロジェクト）を平成29年度から森林総研九州支所、林木育種センター九州育種場、宮崎大学農学部との共同研究により実施しているところです。

毎年、年度初めに各研究機関及び森林技術・支援センター、熊本南部森林管理署、技術普及課担当者が一同に会し、現地検討及び成果等の報告会を実施しているところであり、本年度も実施したところです。午前中は現地検討会を実施し、各機関等の担当箇所の現地説明及び意見交換を実施し、午後は会場を熊本南部森林管理署に移し、経過報告会を実施しました。

報告では、大きめの苗（中苗）では形状比（根元径と苗高の比率）は最低１００以下でないと倒伏が起きやすいことや中苗ではプランディングショック（地上部と地下部のアンバランスによる水ストレスや苗木の傾斜・倒伏現象）は起こらない等の成果報告や昨年度は22の機関等により、４０１名の視察等実施された報告がありました。

現地での説明の様子

経過報告会の様子

今後の調査計画や下刈計画等の調整や意見交換も実施し、各機関が連携しつつ調査や研究を実施することを確認し報告会を終了しました。

（担当＝技術普及課）

南那珂地区で「誤伐・盗伐対策連絡会議」を開催

【宮崎南部森林管理署】５月13日に日南市で南那珂農林振興局主催の誤伐・盗伐対策連絡会議が開催されました。

会議には、宮崎県、日南市、串間市、警察署、森林組合、林業事業体から15名が参集し、誤伐・盗伐対策について協議しました。

会議は、宮崎県から前年度に多数の誤伐・盗伐が疑われる相談件数があり、憂慮される状況であったことから、その対策として、３月末に県内の行政、建設業協会、トラック協会及び木材市場連盟などで「新たな合法伐採推進対策に関する協定」を締結したことの報告がありました。

会議の様子

また、両市からは伐採届の審査の強化や林地台帳の整備、新規参入業者への指導の徹底など具体的な取り組みについて紹介されました。

当署もオブザーバーとして参加し、情報を共有し、伐採届旗の掲げていない現場を発見次第、日南・串間市へ通報するなど協力することにより、森林の無断伐採の根絶並びに合法木材の確実な流通及び利用が図られるよう取組んでいきます

イベントで国有林をPR

【宮崎森林管理署】　５月11日、宮崎市内「生目杜運動公園」において、農林水産物の地場産品を広く紹介する「食フェスタin みやざき２０１９」（食フェスタinみやざき実行委員会主催）が開かれました。

当署からは、恒例の木工体験（木製キーホルダー「もっくん」・表札づくり）や、クイズ形式の森林教室、林野庁のパンフレット（九州の国有林・お山ん画等）の配布を行い、積極的に国有林のPRを行いました。

イベント当日は、快晴に恵まれ、多くの親子連れが訪れ、大人も子供も時間を忘れ木工を体験してもらいました。

さらに、署の敷地内に実をつけていた「桑の実」の試食を行い、子供の頃を懐かしむお年寄りの方や、初めて口にする子供達が「美味しい」「少し酸っぱいけど美味しい」「ん．．．自然な味がする」等様々な反応がありましたが、好評のうち完食。

当署のブースは、一日中、親子連れやお年寄りまで幅広い年齢層の皆さんで大盛況となりました。

また、本イベントへの参加にあたり、企画からイベント当日までの準備作業をとおして若手職員が主体的に取り組んでくれており、一般の方々に森林管理署を身近に感じていただくとともに、若手職員にとっても大変貴重な体験となりました。

クイズ形式の森林教室の様子

登山シーズン到来 各地で山開き開催

黒岳

【大分森林管理署】平成31年4月29日、第40回「黒岳」山開きが庄内町観光協会主催により、由布市庄内町阿蘇野の男池駐車場において開催され、関係者約40名が出席し登山の安全祈願を行いました。当署からは、永田豊大分森林管理署次長、山部秀巳地域林政調整官の2名が出席し、関係者とともに登山シーズン中の安全祈願を行いました。

はじめに、佐藤人巳庄内町観光協会会長から、「本日は、あいにくの雨模様の天候となりましたが、今シーズンも原生林に覆われた黒岳周辺の新緑を堪能していただきたい」と挨拶がありました。

この日、会場では先着200名に記念の特製バンダナが配布されました。また、地元婦人部の皆さん手作りの豚汁が振る舞われました。

その後、雨模様の中、登山者は足下を一歩一歩確かめながら歩道を進み、「かくし水」までのトレッキングコース周辺の新緑を眺め自然を楽しんでいました。

くじゅう連山の中では珍しく天然林におおわれた黒岳周辺は、大型連休を中心に現在「しゃくなげ」が咲き誇っていますが、5月末頃には山肌をピンク色に染めるミヤマキリシマが咲く季節へと移って行きます。

安全祈願　神事の様子

祖母山

【大分森林管理署】5月3日、第63回「祖母山」山開きが、祖母山山開き実行委員会主催により山頂（標高1756m）で開催されました。

当日は、青空のもと県内100人が山頂を目指し、当署からは坂本和隆大分森林管理署長、古閑智之総括事務管理官、井上和也主任森林整備官、山本純也地域統括森林官、上村徳光首席森林官の5名が出席しました。

大分森林管理署長による玉串奉奠

はじめに、川野文好実行委員会会長（豊後大野市長）から、「平成29年6月、ユネスコエコパークに登録されたこの雄大な自然を大切に守りながら、多くの方に訪れていただき楽しんで欲しい」と挨拶がありました。

山頂祭では、大分署長も玉串奉奠を行い、登山シーズン期間中における登山者の安全を祈願しました。

この日、最高齢男性は84歳、女性は70歳、最年少男性は6歳、女性は6歳の方で、実行委員会から記念品が贈られました。

また、山頂祭終了後には先着1000名に記念品が配布されました。

福岡県から訪れた登山者は、早朝5時30分から登り、「アケボノツツジの花を見たくて来ました」と話していました。

また、子ども（当時2歳）を救出して一躍有名となった「スーパーボランティア・尾畠春夫さん」の姿もあり、祖母山の雄大な自然を満喫されていました。

現在、山頂周辺はアケボノツツジやヤマボウシが咲き、令和元年の新緑を迎える大自然を満喫することができます。

由布岳

【大分森林管理署】5月12日、由布岳観光協議会主催により、第39回「由布岳（1584m）」山開き祭が、由布岳正面登山道入り口で由布市、別府市、大分県、陸上自衛隊湯布院駐屯地など関係機関・団体の代表者が出席し安全祈願が行われ本格的な登山シーズンが到来しました。

当署からは、坂本和隆大分森林管理署長、永田豊次長、井上和也主任森林整備官、蒲池勝也森林整備官、田吹涼太技官、木下昴大技官、6名の職員が出席し登山道の点検パトロールを実施しました。

はじめに、主催者を代表して相馬尊重由布岳観光協議会会長（由布市長）から、「由布岳周辺は、四季折々に新緑や植物の花などを楽しむことができます。県内外多くの方に訪れていただきたい。登山で疲れた体をぜひ温泉で癒してください」と挨拶がありました。

山開き祭では、大分森林管理署長も護摩木奉納・万歳三唱を行い、登山シーズン期間中における登山者の安全を祈願しました。

関係者による山開きのテープカットの様子

その後、陸上自衛隊員よる、演奏が披露されました。また、

自衛隊員の皆さんが手際よく作った豚汁が無料で振る舞われ、熱々の豚汁の味に満足そうな表情を浮かべていました。

この日、実行委員会で準備した、記念品（帽子）の配布には、県内外から訪れた登山者の長蛇の列ができていました。

また、これまで登山道の整備に取り組んでこられた、「スーパーボランティア・尾畠春夫さん」の姿が式典会場にあり、訪れた登山者と写真撮影をしたり、楽しく話しをされていました。

これからの季節、由布岳は本格的な登山シーズンに入りますが、「山頂からの絶景」と「新緑」が登山者の目を楽しませてくれます。

春の平成新山防災視察登山に参加

【長崎森林管理署】5月21日、雲仙普賢岳の溶岩ドーム「平成新山」（1483m）への防災視察登山が島原市と九州大学地震火山観測センターの共催により実施され、23の関係機関及び報道関係者を含め73名が参加し、長崎森林管理署からも3名が参加しました。

視察登山の目的は、関係機関において警戒区域内にある溶岩ドーム及び平成新山周辺の現状を視察し、その情報と認識を共有するもので、毎年春と秋に実施しています。

九州大学の地震火山観測研究センターからは、「火山活動は落ち着いた状態」とした一方、「小規模な水蒸気爆発が起こる可能性はある。大地震による影響でドーム崩落には引き続き注意が必要」との説明がありました。

また、国交省雲仙復興事務所からは溶岩ドームは1年間当たり約6㎝沈降しており、97年の山体観測開始から22年間で、計1．3m島原市側にずり下がっているとの情報もありました。

水蒸気を吹き上げる普賢岳山頂の様子

平成新山の溶岩ドーム周辺は、溶岩が固まり割れてできた巨石が積み重なり非常に不安定なため、慎重に足場の安全を確認しながらの登山でしたが、事故や怪我もなく参加者全員が無事下山し、防災視察登山を終えました。

「ニッセイ湯布院の森」育樹活動（芽かき）を実施

【大分森林管理署】5月11日、「ニッセイの森」友の会（日本生命大分支社）・ニッセイ緑の財団主催により、由布市湯布院町塚原　由布鶴見岳国有林内の「ニッセイ湯布院の森」において、約80名が参加して育樹活動（同財団初の芽かきイベント）が行われました。

「ニッセイ湯布院の森」は、平成5年1月に分収造林契約を締結し、面積2．12ヘクタールにクヌギを約6000本植栽。今回は、一昨年の伐採後に萌芽し、大きいもので背丈程に成長した芽を、将来の目標林にするための芽かき作業が行われました。

はじめに、日本生命大分支社の溝井伸二支社長から「ニッセイ緑の財団は、平成5年7月に設立され26年目となり、設立時の目標であった「ニッセイ100万本の植樹活動」を、平成14年に達成し、現在までに、全国46都道府県195箇所、136万本を植樹してきました。大分県内には、ここ湯布院と九重町、安心院町、別府市の4箇所で活動を展開しています。このような活動を更に発展するために、森林の恵みも感じながら楽しんでください」と挨拶がありました。

つづいて、来賓として出席した、坂本和隆大分森林管理署長から「国有林は国民の森林であり、ニッセイ湯布院の森は国民参加の森としてご活用いただいています。当署では、地球温暖化防止対策や、国民の生命財産を守るため後方に見える由布岳でも実施している治山事業をはじめ、様々な事業に取り組んでいます。本日は、国民の祝日“山の日”を意識した8月11日の3ヶ月前のイベントですので、森林の恵みを意識していただき、このような活動が益々発展されるよう祈念します」と挨拶。

その後、大分森林管理署　井上和也主任森林整備官から、芽かき作業をする際の注意事項や安全作業について説明を行い、記念撮影の後、早速作業に入りました。

芽かきをする子供たち

参加した親子は、はじめは慣れない様子でしたが、芽かき作業をしていると徐々になれてきて、さわやかな汗を流していました。

おわりに、西隆昭常務理事事務局長から「ニッセイ緑の財団の設立時から、100万本の植樹運動を掲げて取り組んできました。現在併行して進めている「樹木名プレート・学校の木のしおり」を全国の活動としてさらに広げたい」と挨拶がありました。

モニターの声

山林とのかかわりの中で

内木場 哲也 さん

数年前、台風の大風がふき一夜でスギとヒノキの林が変わりはてた。私の誕生を機に祖父が苗木を植え、枝打ち技能で県から表彰を受けたほどの林。父が受けつぎ世話をつづけ伐採時期をむかえていた。あちこちで被害を受けていてこの地域では半世紀あまりない被害と聞く。倒木の折りかさなる姿はいまも残り、復旧土木工事と植樹による林の再生が続いている。

林をどうしようかと親や成人した子どもたちと話をした。私の親はふたたびスギやヒノキを植えようといい、子はスギより雑木林や果樹がいいとの意見。私は本業のかたわら管理が大変でない方策はと漠然と考えていた。

その矢先に国有林モニターの募集を目にした。各地の山や林はどんな状況だろうか、手がかりが得られないかと参加してみた。

モニターの活動を通じて、特に、九州地方の国有林、さらに日本の森林に関するさまざまな情報を提供していただいている。なかでもモニター会議で豪雨災害に被災した日田地域を訪問、被災された方からじかに災害のすさまじさをお聴きでき、林野庁の担当の方々からは私有林、国有林の区別のない甚大な被害、気の遠くなる規模での復旧事業のようすなどを現地で見聞させていただけて、いずれも心に深く刻まれた。災害に無縁でない中山間地にくらす自分たちにとって貴重な体験となった。関係者の方々に感謝申し上げたい。

さて地元に話をもどすと、すでに近所には台風被害のあと森林管理署と相談し自主的に重機を入れて倒木をかたづけ、植林を手際よくおこなった方がいる。社会人のお子さんとともに作業されているのが印象的だった。この方を通じて森林管理署や森林組合などの支援がもらえることを知った。

周囲を見習いながら牙をむく自然に謙虚な態度で接し、安全かつ持続的に管理できるようにマイペースで行動しようと思う。

例年、落ち葉を集めて腐葉土にし畑に入れている。野菜を支えるのに山の笹竹はかかせない。ことしはしいたけ栽培のほだ木にするため、くぬぎの実を発芽させ育てている（写真）。じきに林に植えつける予定だ。父が育てたくぬぎは私が、そして私が植える木はのちの世代がとリレーしていく。作物や木々の生長に目を細め、収穫の喜びをあじわいながら無理なく山とかかわりつつ過ごすならば自分たちで続けていけるだろう。

あと1年間のモニター活動でさらに山林に関わる人々との交流と国有林への理解を進めていきたい。

（鹿児島市在住）

くまもと林業大学校で講義

【熊本森林管理署】熊本県では次世代をリードする林業担い手の育成と確保を目的として、本年4月にくまもと林業大学校を開校しましたが、（公財）熊本県林業従事者育成基金からの依頼を受けて、川畑充郎署長が「国有林の役割と具体的な取組」と題して、5月31日に県北校（熊本県林業研究・研修センター）の学生11名に講義を行いました。

講義では、まず林野庁全体の組織と役割を説明した後、九州森林管理局のパンフレットや平成31年度の重点取組事項等により、国有林の役割と具体的な取組について説明し、学生たちも熱心に受講しました。

最後の質疑応答では、学生から国有林のシステム販売について多くの質問が出されるとともに、講義終了後も森林経営計画制度の改善点やコンテナ苗増産のための課題等について個別に熱心に意見したり質問する学生もおり、これから自分たちが熊本県の林業を担っていくとの意気込みが強く感じられ、大変頼もしい限りでした。

当署としては、引き続きくまもと林業大学校をはじめその他の民有林関係機関からの要請等に対して、適切に対応していく考えです。

川畑署長の講義を熱心に受講する学生

中学生が職場体験学習

【鹿児島森林管理署】鹿児島森林管理署では、三島村立竹島中学校からの2名の生徒を受け入れ、5月27日～28日の2日間、職場体験学習を実施しました。

初日は森林管理署の役割や管内概要等を説明した後、治山工事（護岸工）の施工現場において、海岸防災林整備の重要性等について学んだ後、森林整備（保育間伐活用型）を実施している請負現場へ行き立木や丸太の計測の仕方等について学びました。また、2日目は立木・丸太材積の算出方法や立木販売、製品販売の違い等について学んだほか、コンパス測量、図面作成の実習を行いました。

今回参加した生徒は静岡県と滋賀県から三島村に山村留学している子供たちで、自然や森林について興味を持っていたことから森林管理署を職場体験の事業所として選んだとのことでした。今回の体験学習を機に更に森林や林業に関心を深め、将来の森林・林業の担い手として育ってくれることを期待して職場体験学習を終了しました。

コンパス測量の指導を受ける生徒

緑の募金ありがとうございました

○一般財団法人　日本森林林業振興会熊本支部　様
○一般財団法人　森林・林業調査研究所九州支部　様
○株式会社　森和　様
○九州国有林林業生産協会　様

錦森林事務所が移転

【熊本南部森林管理署】県道、錦・湯前線のバイパス整備が行われ、当該事業用地が錦森林事務所敷地も対象となったことから、機能補償協定による新事務所が完成しました。5月28日に錦森林事務所の引っ越しを済ませ、当日より業務を開始しました。

新しい事務所においても、国有林の最前線として、地域の方々からの幅広い相談や対応等、地域と連携して取り組んでいきたいと思います。

看板を掲げる工藤署長と藤井主席森林官

「わたしの美しの森」フォトコンテスト開催

募集機関　令和元年６月３日（月）～
令和元年１０月７日（月）（当日消印有効）

「わたしの美しの森フォトコンテスト」実行委員会は、「日本美しの森 お薦め国有林」をはじめとする森林やそうした森林を抱える山村地域について、わたし（撮影者）が美しい（魅力的である）と思い、人にお薦めしたくなるような風景・場面を撮影した写真を募集し、これを公表するためのフォトコンテストを開催します。
詳細につきましては、林野庁HP（www.rinya.maff.go.jp/）をご覧下さい。
皆様からの多数の応募をお待ちしています。

新規採用研修及び基礎全般研修の前期日程を終える

5月13日から14日の2日間において、平成31年度一般職員採用者18名を対象に新規採用研修を実施しました。

原田隆行局長訓示をはじめとして林視次長、秋岡陽一郎総務企画部長からの講話、勝沼太志企画調整課長からは、九州局の取り組み事項について分かりやすく説明がありました。また、森林管理局の仕事について、各課長補佐から各課の係やその業務内容及び署等との関係について、丁寧に説明を行って頂きました。

引き続き5月14日から17日の4日間において、基礎全般研修（前期）を実施し、総務課各係の業務・経理課各係の業務・パソコンの基本・森林調査簿等の見方の講義を受けました。

短い期間の研修でしたが、各講義等に対して研修生全員が真剣に取り組み、質問も積極的に行うなど活気のあった研修でした。また、受講している研修生の姿を見ていると今後の国有林野事業の明るい未来が見えたように感じたところです。

最後に局長や幹部の皆様、そしてこの研修にご協力頂いた講師の皆様方にお礼と感謝を申し上げます。

（担当＝総務課）

都会の中の憩いの森 監物台樹木園の多様な植物

⑬⑨ イタヤカエデ（カエデ科）

5県合同採集会で鹿児島県に行ったときに、初島先生（鹿大・博士・故人）から、エンコウカエデを区別することはない、イタヤカエデの分類でよいという話を聞いたことがあります。牧野図鑑では別種になっていますが、保育社の図鑑では同種で掲載されています。

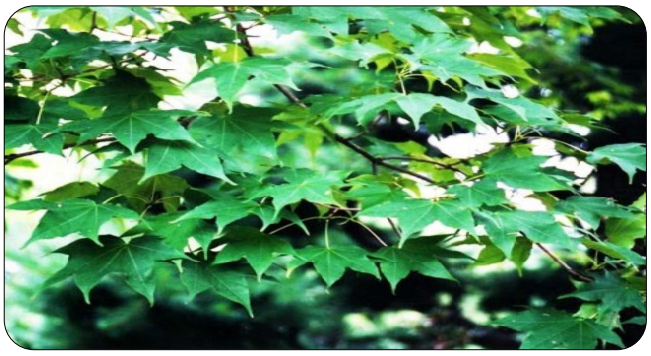
カエデ科は対生の葉が基本となっており、イタヤカエデも対生で小葉が全縁であることで区別できます。同じようにエンコウカエデとオオモミジが似ていますが、全縁であればエンコウカエデです。鋸歯も区別の大事な要素となります。

名前は葉がよく茂り、丁度、板で屋根をふいた板屋のように雨が漏れることはない意味からつけられました。イタヤカエデを目の高さで観察するとこの意味がよく分かります。

葉でサトウカエデ（カナダの国旗）に似ているのはカジカエデですが、イタヤカエデからも樹液を煮詰めるとサトウカエデと同じく砂糖（メープルシロップ）ができるそうです。

切り込みが深いのはエンコウカエデといいますが、名前は猿の口でなく、裂片が細長く猿の手に似ていることから猿猴（えんこう・手長猿？）と呼ばれます。

森林インストラクター　安楽　行雄



みどりの散歩路

今年の冬は暖冬のため活躍の少なかった、わが家を温めてくれた薪ストーブも、それなりに薪を消費したため、来シーズンに向け薪集めが必要な状態となっている▼しかし、4月の異動で屋久島に単身赴任となり、それは不可能となった▼仕方ないので、当分の間はあちこちにストックした薪を集めて薪棚を埋めるとして、それ以降は、環境によろしくない電気や灯油に頼るしかないのが残念だ▼屋久島への異動が決まって決意したことは、昨年から上がり始めた高血圧対策に適度な運動？として、ロードバイクによる月一回の屋久島一周と、登山道の全ルート踏破と継続である▼5月に屋久島一周を決行、9時間かけ達成したものの、西部林道で立ちごけしてしまい、左膝前十字靭帯を損傷、現在山歩きもできず当初立てた目標は中断、業務にも支障をきたす始末となっている▼ロードバイクでの屋久島一周は、車で見る景色と違って、奥岳や雄大な海を堪能でき屋久島の魅力を再認識できた。中断している、屋久島一周と登山道踏破実現のため、早く膝を治し屋久島を満喫したいものだ。

（み）